

プロジェクト名：明石市江井島周辺を中心とした藻場造成「アマモは海のゆりかごだ！」プロジェクト  
実施者：江井ヶ島漁業協同組合  
東洋建設株式会社大阪本店  
特定非営利活動法人アマモ種子バンク

## ○単位面積当たりの CO<sub>2</sub> 吸収量の算定【①谷八木地区】

### 【調査・算定方法】

- ①2025 年 4 月 30 日にドローンによる空中写真撮影を実施し、谷八木地区海域のオルソ画像を得た。ただし、昨年夏から当該アマモ場の衰退が激しく、2025 年 4 月 30 日時点の空撮写真で確認できたアマモ場の分布範囲は例年に比較してかなり狭いものであった。そこで 4 月 30 日以降のアマモ場の成長を期待して、アマモ場面積算定のためのドローンによる空中写真撮影は、潜水調査を実施する日を念頭に改めて実施することとした。結果的に、2025 年 7 月 9 日に実施したドローンによる空中写真撮影で得た谷八木地区海域のオルソ画像を使用した（図-1）。
- ②2025 年 6 月 11 日に谷八木地区海域内に測線を設定し、潜水土によるコドラート調査を実施してアマモの分布、生育密度、葉長等を計測するとともに水中写真を撮影した（図-2 中の●印の点。補足点として●印の点）。
- コドラート調査では、コドラート直上に GPS を取り付けたブイを浮かべて調査地点の位置情報を取得した。
- また、アマモ場の沖側縁部に沿ってダイバーが GPS 取り付けたブイを移動させ、アマモ場の沖側境界を明らかとした（図-1 中の●印の点列）。
- ③同日、谷八木地区海域内 2 ヶ所（図-1 中の●印の点）でアマモの単位面積当たりの質量調査のため、各 0.1m<sup>2</sup> 内に生育していたアマモ生体をサンプリング（図-2）。採取したアマモは葉上の付着物等を取り除いて湿質量を計測し、60℃で 48 時間以上乾燥させ、乾燥質量を計測した（海藻・海藻藻場の CO<sub>2</sub> 貯留量算定ガイドブック，2023）。
- ④求めた乾燥質量を J ブルークレジット®認証申請の手引き(Ver.2.5)中の式 2 に当てはめ、単位面積当たりの CO<sub>2</sub> 吸収量を算定した。

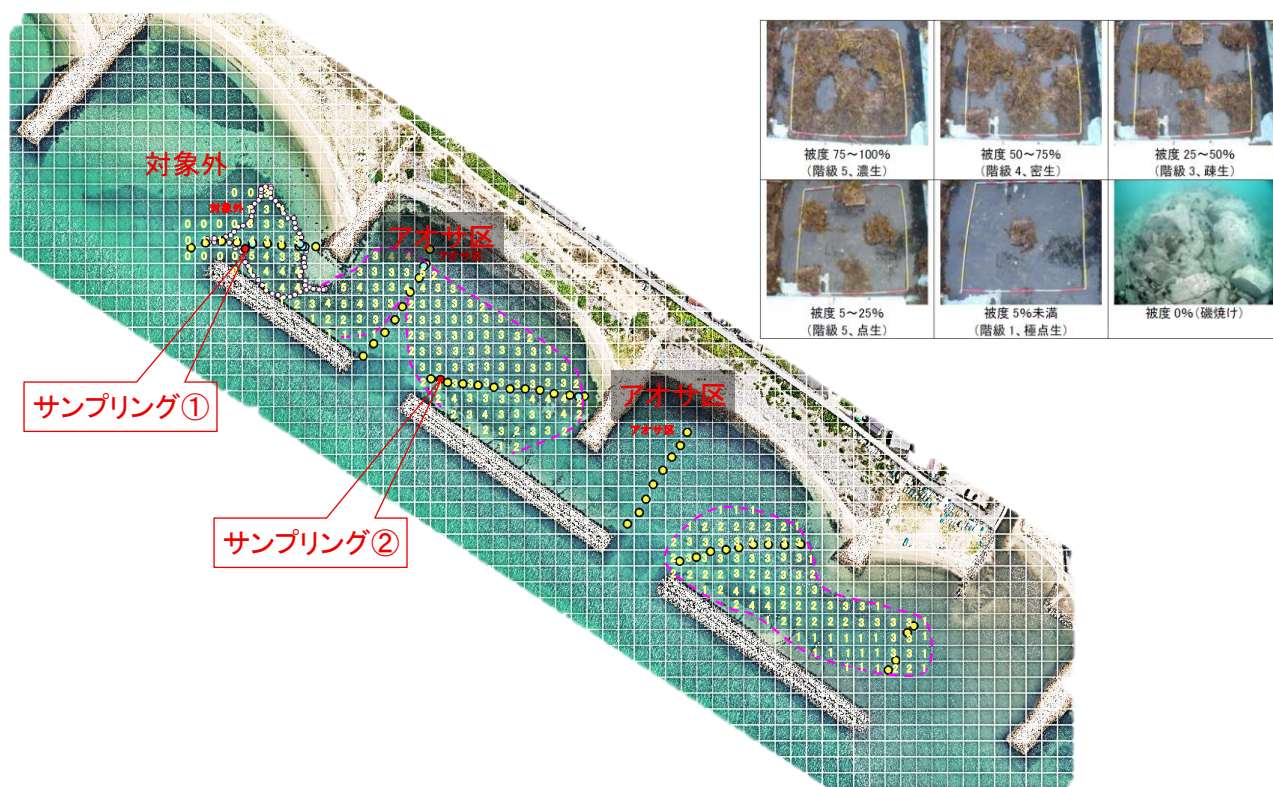


図-1 谷八木地区のアマモ場と調査地点



(a) アマモのサンプリング (1ヶ所目)

(b) アマモのサンプリング (2ヶ所目)

図-2 谷八木地区のアマモのサンプリング状況

#### ○被度によるアマモの質量の補正

図-2 が示すように、今回採取したアマモのコドラート内の被度は、1ヶ所目が被度3（平均の被度割合 37.5%）、2ヶ所目が被度4（平均の被度割合 62.5%）と判別された。このアマモ場の  $\text{CO}_2$  吸収量を算定するにあたり、面積は実勢面積（被度 100%相当）を使用するので、サンプリングしたアマモの質量も被度による補正を次式により施した。被度3と4の平均の被度割合は 50.0%とした。

$$\text{被度補正したアマモの質量} = \text{サンプリング①と②のアマモの平均質量} \times 100/50.0$$



# ○単位面積当たりの乾燥質量

谷八木地区海域で採取した2サンプルのアマモは60℃で48時間以上乾燥させ、乾燥質量を計測した(海藻・海藻藻場のCO<sub>2</sub>貯留量算定ガイドブック, 2023)。計測したアマモの質量には被度による補正を行った(表-1)。

表-1 アマモの乾燥質量の調査結果(谷八木地区)

	谷八木①	谷八木②	平均	被度補正後
湿質量(g/m <sup>2</sup> )	1724.30000	1061.80000	1393.05000	2786.10000
乾燥質量(g/m <sup>2</sup> )	208.20000	114.30000	161.25000	322.50000
含水比	0.879255	0.892353	0.885804	0.884247



(a) 湿質量 (谷八木地区①)



(b) 湿質量 (谷八木地区②)



(c) 乾燥質量 (谷八木地区①)



(d) 乾燥質量 (谷八木地区②)

図-2 アマモ質量の調査結果(谷八木地区)

○単位面積当たりの CO<sub>2</sub> 吸収量（式 2）

J ブルークレジット認証申請の手引き（Ver.2.5）に示された CO<sub>2</sub> 吸収量算定式（式 2）を以下に示す．

$$\text{CO}_2 \text{ 吸収量} = \text{対象生態系の分布面積} \times \text{単位面積当たりの湿重量} \times (1 - \text{含水比}) \times \text{炭素含有比} \times \text{P/B 比} \\ \times 44/12 \times (\text{残存係数①} + \text{残存係数②}) \times \text{生態系全体への変換係数}$$

式 2 の各係数の設定値とその出典根拠，および算定された谷八木地区の単位面積当たりの吸収量を表-2 に示す．

表-2 単位面積当たりの吸収量の算定結果（谷八木地区）

項 目	数 値	備 考
単位面積当たりの湿重量(t/ha)	27.86100	現地計測結果(被度補正後)
P/B 比	4.0	文献 1)
含水比	0.88424	現地計測結果
炭素含有比(%)	35.0	文献 2)
残存係数①	0.1620	J ブルークレジット認証申請の手引き
残存係数②	0.0181	J ブルークレジット認証申請の手引き
生態系全体への変換係数	2.12	J ブルークレジット認証申請の手引き
単位面積当たりの吸収量(t-CO <sub>2</sub> /ha): 式②	6.32089	

文献 1) (独法) 森林総合研究所, (独法) 水産総合研究センター: 森林総合研究所交付金プロジェクト研究 成果集 3「森林, 海洋等における CO<sub>2</sub> 収支の評価の高度化」, p.105, 2004.

文献 2)堀 正和, 桑江朝比呂: ブルーカーボン, 地人書館, 254.p, 2017.